

青森県立高等学校教育改革推進計画に関する  
地区意見交換会（三八）における主な意見

平成29年2月13日



# 目次

1	三八地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み.....	1
2	全日制課程の学校規模・配置に関する意見.....	2
(1)	重点校、拠点校、地域校について.....	2
(2)	委員の意見に基づく学校配置シミュレーション.....	3
ア	平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合.....	3
イ	三戸郡にも多様な学びのできる高校を配置する場合.....	5
ウ	三戸郡の新設校に田子高校も統合して配置する場合.....	7
エ	五戸高校と八戸西高校を統合して新設校を配置する場合.....	9
(3)	その他の意見.....	11
3	定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見.....	13
	【参考1】委員名簿（三八地区）.....	14
	【参考2】オブザーバー名簿（三八地区）.....	15
	【参考3】地区意見交換会の開催状況（三八地区）.....	15

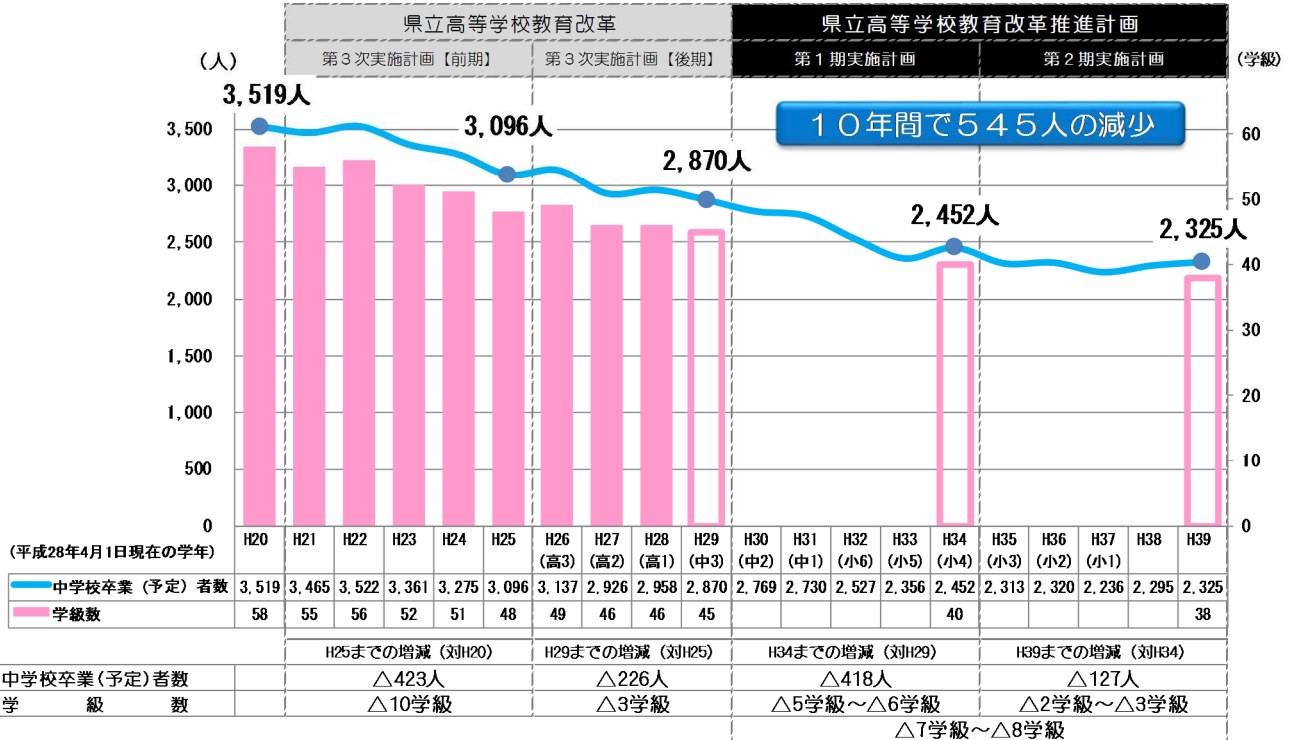
# 1 三八地区の中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み

※中学校卒業(予定)者数は、各年3月。

平成29年度以降は、平成28年5月1日現在の児童生徒数をもとに県教育庁高等学校教育改革推進室において推計。

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。

平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出。



			第1期実施計画	第2期実施計画
試案における候補校			H29	H39
重点校	八戸高校	6学級	△5学級 (対H29)	△7学級 (対H29)
拠点校	八戸工業高校	7学級		
地域校※	田子高校	1学級		
重点校等の合計		14学級		
連携校	八戸東高校	6学級		
	八戸北高校	6学級		
	八戸西高校	5学級		
	八戸商業高校	4学級		
	名久井農業高校	3学級		
	八戸水産高校	3学級		
	三戸高校	2学級		
	五戸高校	2学級		
連携校の合計		31学級		
三八地区全体の合計		45学級	40学級	38学級

※基本方針に定める地域校の方向性に基づき、募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満となった場合には、当該高校の所在する市町村等と募集停止等に向けて協議します。

## 2 全日制課程の学校規模・配置に関する意見

### (1) 重点校、拠点校、地域校について

#### ① 全般

- 重点校、拠点校の候補校については、適切だと考えている。
- 生徒減少を考えると、高校の重点化、拠点化はやむを得ない。
- 重点校、拠点校、地域校と称しなくても再編を進めることができるのではないか。
- 重点校、拠点校をそれぞれ1校とする考えには賛成である。
- 重点校、拠点校の名称の方が先走りして、優先的に見られるなど、偏った見方で捉えられないよう、連携校とのバランスや質的保障の面など、丁寧な説明をして理解を進めていってほしい。
- 郡部に重点校や拠点校を設置しても良いのではないかと考える。

#### ② 重点校

- 重点校の候補校については、知識基盤社会やグローバル化等、今後の変化の激しい社会で高校生を育てる点から賛成である。
- 現在の知識基盤社会やグローバル化の中、様々な科目を選択できるようにするため、重点校には6学級規模が必要だ。重点校が地区で1校ということに異論はない。
- 八戸高校を重点校とすることにより、高校の序列化が加速する恐れがあるため、子どもたちにプレッシャーが掛からないようにしてもらいたい。
- 重点校と連携校との連携は具体的にどのように進めていくのかが見えにくい。大学進学指導に特化するのであれば可能かもしれないが、在籍生徒のニーズや質が異なるので難しいのではないか。
- 重点校は4学級規模では駄目なのか。

#### ③ 拠点校

- 拠点校については、専門的な幅広い知識が必要であり、4学級規模が必要である。
- 商業の授業を行っている普通科の高校も多いことを考えると、県南に商業科の拠点校があっても良いのではないか。

#### ④ 地域校

- 地域校の候補校について、田子町の清水頭地域からの通学を考慮していただいたものと感謝している。
- 基本方針には、連携型中高一貫教育の見直しについても掲げられているが、田子高校は卒業生全員の進路決定を達成しており、一人一人の生徒が活躍できる場を与えてもらっている。
- 地域校の候補校が示された際に、田子高校を地域校とすることに違和感を覚えた。
- 地域校の存続については、今一度、地域の現状とニーズを（地域の声を十分に聞いて）把握した上で、再検討する必要があるのではないか。
- 地域校については、田子高校でも良いと思うが、同じ郡部校として地域の拠点の学校となっている、三戸高校と五戸高校をもっと重要視すべきだと思う。
- 地域校については、現在のところ田子高校でも致し方ないところもあるが、もし数年後田子高校が募集停止となり、三戸高校、五戸高校とも学級減になった場合には、この2校を地域校にしてはどうか。
- 地域校とする学校については、生徒数だけでなく、地域性、生活圏、文化圏、歴史等を十分考慮した上で判断すべきであると考えている。

(2) 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション

ア 平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29	H34	H39	H39
重点校	八戸 6学級		八戸 6学級		八戸 6学級
拠点校	八戸工業 7学級		八戸工業 ○学級		八戸工業 ○学級
連携校	八戸東 6学級		八戸東 ○学級		八戸東 ○学級
	八戸北 6学級		八戸北 ○学級		八戸北 ○学級
	八戸西 5学級	△4学級 →	八戸西 ○学級		八戸西 ○学級
	五戸 2学級		五戸 ○学級	△2学級 →	五戸 ○学級
	三戸 2学級		三戸 ○学級		三戸 ○学級
	名久井農業 3学級		名久井農業 ○学級		名久井農業 ○学級
	八戸水産 3学級		八戸水産 ○学級		八戸水産 ○学級
	八戸商業 4学級	△1学級 →	八戸商業 3学級		八戸商業 ○学級
	小計	44学級	△5学級 →	39学級	△2学級 →
地域校	田子 1学級		田子 1学級		田子 1学級
合計	45学級	△5学級 →	40学級	△2学級 →	38学級

※ 八戸商業高校は、第3次実施計画により、平成30年度に1学級減の予定である。

### ① シミュレーションの基となった意見

- 郡部の高校は、各学年1クラスになっても残してほしい。

### ② 期待される効果等

- 入学した生徒は必要があってそれぞれの高校に入学していることを考慮し、小規模でも良いので、郡部の学校を残してもらいたい。
- 親の送迎に係る拘束時間や、費用が負担になっていると聞く。三戸郡にも高校は必要である。
- 三戸町では小中一貫教育を行い、三戸高校とは連携協定を結んでいることから、小中一貫教育を行う上では、三戸高校は必要である。
- 郡部に配慮した効果的な学校配置である。
- 地元で高校があったから上級学校に進学させることができたという話も聞いており、高校進学は勿論であるが、地元の高校の存続は更に学ぶ意欲のある生徒への支援になる。
- 地域と密着した教育活動や社会参加型の活動が期待できるし、地域の活性化にもつながる。
- 郡部の生徒、保護者で地元高校を希望する者にとっては安心だと思う。
- 良い高校に行って良い大学に行くよりも、地元に残ってもらいたいとの思いがある。八戸市内の高校を卒業してしまうと、県外の大学等に出てしまい、結果として帰ってこない。したがって、地元の高校を卒業して良かったと思われるような学校づくりを進めていくべきではないかと思っているので、現在ある高校の教育の充実が必要と思われる。

### ③ 更に検討を要する課題等

- 教員や部活動の数の確保や、子どもは集団で学び合いながら、社会に求められる力を身に付けることを考えると、ある程度学校の規模は必要と考える。
- 適正な教育効果を得るために必要な4学級規模に満たない小規模校が乱立し、効果的な高校教育の実践がなされないと想像できる。
- 郡部の高校が、魅力ある高校として中学生に訴えるなど特色ある方策を実施しないと、入学者減が一層激しくなる。
- 学級数減の数あわせに過ぎないような気がする。生徒減少に伴う学級数減だけの対応というだけでは、理解を得られない面もあるのではないかと。
- 地区の高校を残すことを主眼とした計画が、「高校教育の質」を担保し、生徒たちの未来を見据えたものになっているか再考する必要があるのではないかと。
- 郡部の高校の学級減が予想され、その地域の文化は衰退する。
- 小規模校に、県独自で教員を加配して開設科目を増やすなど、特色ある高校教育を目指したい。
- 三戸高校、五戸高校は普通科しかないため、専門学科を希望する生徒は地元ではなく、八戸市内の高校や私立高校を選択するしかなくなる。

### ④ その他

- ICT教育の推進が求められている今、ICTを活用した授業により、小規模校同士の連携、又は、大規模校との連携により、専門教科の教員を揃えられない課題を少しでも解消できるのではないかと。また、行事等を合同で実施することで交流を深め切磋琢磨することができるのではないかと。
- 五戸高校、三戸高校、名久井農業高校、田子高校のそれぞれに特色のある学科があれば良い。

イ 三戸郡にも多様な学びのできる高校を配置する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29		H34	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">重点校</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">拠点校</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">連携校</div>	八戸 6学級		八戸 6学級		八戸 6学級
	八戸工業 7学級		八戸工業 ○学級		八戸工業 ○学級
	八戸東 6学級		八戸東 ○学級		八戸東 ○学級
	八戸北 6学級	△2学級 →	八戸北 ○学級		八戸北 ○学級
	八戸西 5学級		八戸西 ○学級		八戸西 ○学級
	八戸水産 3学級		八戸水産 ○学級	△2学級 →	八戸水産 ○学級
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">五戸 2学級</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">三戸 2学級</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">名久井農業 3学級</div>	△2学級 →	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">新設校 普通科3学級 農業科2学級 5学級</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">新設校 普通科○学級 農業科○学級 ○学級</div>
八戸商業 4学級	△1学級 →	八戸商業 3学級		八戸商業 ○学級	
小計	44学級	△5学級 →	39学級	△2学級 →	37学級
地域校	田子 1学級		田子 1学級		田子 1学級
合計	45学級	△5学級 →	40学級	△2学級 →	38学級

※ 八戸商業高校は、第3次実施計画により、平成30年度に1学級減の予定である。



### ① シミュレーションの基となった意見

- 三戸郡にも多様な学びができる高校の設置について検討すべきである。
- 三戸郡に少なくとも1校を配置していただきたい。その場合、普通高校と農業高校の統合を視野に入れるべき。

### ② 期待される効果等

- 三戸郡に新設校を1校設置すれば、複数の町村から通う生徒が交流することができる。新設校において他の地区も羨むような教育システムをつくり、地元で定着する人材を育てる教育を進めれば良いのではないか。
- 普通科と農業科が一緒になることは賛成である。できれば商業科もあれば就職を希望する生徒にとっては有効であると思う。
- 名久井農業高校を新設校の設置場所とした場合、農園や実習施設等を活用できるので、再編にかかる費用も抑えられる。また、三戸町や八戸市から公共交通機関を利用しての通学が可能である。

### ③ 更に検討を要する課題等

- 1高校、1校舎制だと広域の通学には対応できないことから、複数の校舎を活用しても良いのではないか。
- 五戸高校を募集停止とすると、生徒は十和田市に進学すると思う。また、三戸高校を募集停止とすると岩手県に進学すると思う。
- 新設校を設置する場合、通学手段や交通費等について検討する必要がある。
- 新設校の設置場所が問題である。五戸町から三戸町、南部町方面には通学が困難なため、新設校の場所によって五戸高校は地域校を目指すしか道はない。三戸町、五戸町、南部町で激しい綱引きが行われることが予想される。
- 部活動を高校でも続けたい生徒は八戸市内へ進学していることを考えると新設校も必要だと思うが、やはり地域から高校が無くなってしまふのは寂しい。
- 三戸郡にも魅力ある学科の設置を含めた総合高校の検討が必要ではないか。
- 公共交通機関の利便性やスクールバスの運行等を考慮した上で、新設校を設置する場所について検討する必要がある。
- 普通科と農業科を併置することに対する理解を得られるか。
- 郡内6町村による検討の機会を持てるか。さらに馬淵川沿い、五戸川沿いの地域性を考えた場合、新設校の設置が本当に有効となるかなど、多くの困難と課題が出てくると予想されるので、実現はかなり難しいと思う。
- もし新設するのであれば、田子高校も含めた方が良い。
- 何か新しい学校をつくるということは聞こえは良いが、準備には時間も費用もかかる。新しい学校をつくる際には、この先30年以上を見通した上で、費用対効果について考えるべきだと思う。
- 新設校の学科はありきたりのものだけではないかと思う。その学校ならではの学科新設が大事であると思う。

### ④ その他

- 設置場所は農場等の関係で名久井農業高校が中心となると考えられるが、現在五戸町等から通学している生徒はあまり交通事情が良くないため少ない。また、五戸町等から通学するとなるとバスを利用することになると思うが、バスの本数も少なく、またバスの経営状況によっては、金銭的に保護者又は自治体の負担が大きくなるのではないか。

ウ 三戸郡の新設校に田子高校も統合して配置する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29		H34	
重点校	八戸 6学級		八戸 6学級		八戸 6学級
拠点校	八戸工業 7学級		八戸工業 ○学級		八戸工業 ○学級
連携校	八戸東 6学級		八戸東 ○学級		八戸東 ○学級
	八戸北 6学級	△2学級 →	八戸北 ○学級		八戸北 ○学級
	八戸西 5学級		八戸西 ○学級		八戸西 ○学級
	八戸水産 3学級		八戸水産 ○学級	△2学級 →	八戸水産 ○学級
	五戸 2学級		新設校 普通科3学級 農業科2学級		新設校 普通科○学級 農業科○学級
	三戸 2学級			○学級	
	名久井農業 3学級	△3学級 →			
	田子 1学級		5学級		○学級
八戸商業 4学級	△1学級 →	八戸商業 3学級		八戸商業 ○学級	
合計	45学級	△6学級 →	39学級	△2学級 →	37学級

※ 八戸商業高校は、第3次実施計画により、平成30年度に1学級減の予定である。

### ① シミュレーションの基となった意見

- 田子高校が地域校の候補校になったが、かつて三戸高校の分校だった田子高校が存続して、本校であった三戸高校に統合の可能性があるというのは違和感がある。田子高校も含めて再編のことを考えてはどうか。

### ② 期待される効果等

- 学級数が維持されることにより、教員の適正配置や教育活動の充実が期待される。全体的に教育の質が担保されるのではないか。
- 三戸高校、名久井農業高校、田子高校の統合による新設校としてあり得る案である。

### ③ 更に検討を要する課題等

- 地域の現状や住民のニーズを把握した上で、新設校の学科構成や設置場所を決める必要がある。
- 新設校を設置する場合、通学の手段や交通費等についても十分に検討する必要がある。
- 公共交通機関の利便性やスクールバスの運行等を考慮した上で、新設校を設置する場所について検討する必要がある。
- 通学圏が広域になることから、新設校の設置場所をどこにするか。
- 普通科と農業科を併置することに対する理解を得られるか。
- 町内の中学生流出をくい止めるため、また山間部の隣接する岩手県二戸市の中学生を呼び込むため、魅力ある学校づくりが求められる。
- 郡内6町村による検討の機会を持てるか。さらに馬淵川沿い、五戸川沿いの地域性を考えた場合、新設校の設置が本当に有効となるかなど、多くの困難と課題が出てくると予想されるので、実現はかなり難しい上、田子町からの通学を考えると、設置はさらに難しくなると考える。
- 新設校を配置するのであれば、文化や通学環境も違う中、五戸川沿いか馬淵川沿いのどちらかにしないといけなくなるので、郡部校を1つにするのは現実的ではないと考える。

### ④ その他

- 新設校の学科構成は、普通科、農業環境科、国際情報科等が考えられる。あまり普通科のみにこだわらず、幅広くニーズに応える必要があると思う。
- 新設校は三戸高校の校舎を活用し、場合によっては名久井農業高校の校舎も活用することが考えられる。

エ 五戸高校と八戸西高校を統合して新設校を配置する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画		
		第1期実施計画		第2期実施計画
		H29	H34	H39
重点校 拠点校 連携校	八戸 6学級		八戸 6学級	八戸 6学級
	八戸工業 7学級		八戸工業 ○学級	八戸工業 ○学級
	八戸東 6学級		八戸東 ○学級	八戸東 ○学級
	八戸北 6学級		八戸北 ○学級	八戸北 ○学級
	八戸西 普通科4学級 スポ科1学級 5学級	△4学級 →	新設校 普通科○学級 スポ科○学級 ○学級	新設校 普通科○学級 スポ科○学級 ○学級
	五戸 2学級			△2学級 →
	三戸 2学級		三戸 ○学級	三戸 ○学級
	名久井農業 3学級		名久井農業 ○学級	名久井農業 ○学級
	八戸水産 3学級		八戸水産 ○学級	八戸水産 ○学級
	八戸商業 4学級	△1学級 →	八戸商業 3学級	八戸商業 ○学級
小計	44学級	△5学級 →	39学級	△2学級 →
地域校	田子 1学級		田子 1学級	田子 1学級
合計	45学級	△5学級 →	40学級	△2学級 →

※ 八戸商業高校は、第3次実施計画により、平成30年度に1学級減の予定である。

### ① シミュレーションの基となった意見

- 高校の配置については、戦前の状況や昭和20年代の状況に戻してはどうか。例えば八戸西高校を募集停止とすれば、五戸高校に通学する生徒が増えるのではないか。かつては八戸市内から五戸高校や三戸高校に通学していたので、そのような状況に戻し、市部から町村部へ高校生が通学する流れを作り、地方創生につなげてはどうか。
- 今後の生徒数の減少や通学環境等を踏まえると、五戸高校と八戸西高校の統合、八戸市内の普通高校の統合、三戸郡内の高校の統合による総合高校のような学校の新設が考えられる。

### ② 期待される効果等

- 学級数が維持されることにより、教員の適正配置や教育活動の充実が期待される。全体的に教育の質が担保されるのではないか。
- 五戸高校と八戸西高校の統合による新設校としてあり得る案である。
- 普通高校同士の統合なので、高校自体には変化がないと思う。

### ③ 更に検討を要する課題等

- 新設校を設置する場合、通学の手段や交通費等についても十分に検討する必要がある。
- 公共交通機関の利便性やスクールバスの運行等を考慮した上で、新設校を設置する場所について検討する必要がある。
- 統合といっても八戸西高校が五戸高校を吸収する形になると考えられるので、五戸町住民の説得には困難が予想される。
- 五戸町、新郷村から十和田市方面への流出が予想される。
- 現在五戸町を支えている人材は五戸高校の出身者である。スポーツで活躍している卒業生もいることから、五戸高校を廃校にすることはできない。五戸高校が廃校になる場合、五戸町だけでなく、倉石地域や新郷村の生徒が八戸西高校に通学可能か懸念される。

### ④ その他

- 新設校の学科構成は、普通科、スポーツ健康科、国際観光科等が考えられる。あまり普通科のみにこだわらず、幅広くニーズに応える必要があると思う。
- 新設校は八戸西高校の校舎の活用が考えられる。
- 五戸高校を八戸西高校の五戸校舎として統合できれば、五戸町に高校は残る。また、母体が同じであれば、教員の手薄な部分を本校（八戸西高校）から派遣して授業ができるのではないか。部活動も普段はそれぞれ活動して、土・日に一緒に活動し、大会へは合同チームで出場するという可能性はないものか。

### (3) その他の意見

#### (学校規模・配置)

- 県立高校の再編を実施する際、三八地区の私立高校6校はすべて八戸市内にあることを考慮し、県立高校の中で学級減や廃止にする高校は八戸市内に限るべきである。その場合、私立高校の経営は助かるだろうし、郡内の高校は現状維持となり八戸市から郡内への通学の流れも考えられるだろう。
- 八戸市と三戸郡を切り離して考えるのではなく、三八地区をひとくくりで考えていくべきである。つまり、三戸郡内の高校だけではなく、八戸市内の高校も身を切る覚悟がなければならない。  
一つの考え方として、八戸市内に4校ある普通高校のいずれかと、八戸商業高校との統合を考えたい。例えば普通科3学級と商業科3学級の計6学級とすることにより、残りの普通高校の3校は6学級以上を維持できる。  
少子化への対応のために、全体をバランス良く減じていくのか、充実した教育活動の維持を目指すのか、方針をはっきりさせることも必要ではないか。
- 学級数だけから言えば八戸商業高校と八戸水産高校との統合はどうか。
- 最低限のこととして、三戸郡に高校を残していただきたい。
- 統合をすれば学校数は減るが、1校の学級数が増えることで教員の数も増え、教科指導の欠員もなく、すべての教科をしっかりと学ぶことができるし、多様な部活動にも対応できる。
- かつて生徒数が多くなり設置した学校は、生徒数の減少に伴い統合することになると思う。八戸市内の高校を2、3校募集停止にすれば、三戸郡内の高校に生徒が入ってくるのではないか。また、新聞紙上で三戸郡の高校の活躍を見ると、地域や家庭に密着した教育を展開している三戸郡の高校は存続させるべきと考える。
- 学校配置としては、馬淵川沿いに1校、五戸川沿いに1校が良いと思う。八戸西高校は五戸高校としか接点がないように思う。
- オブザーバーから4学級規模あれば各科目において専門教員を配置できるとの意見をいただいた。教員配置は自由にできるわけではないので、学級数は非常に大事だと思う。
- 生徒減が続いている現状では高校再編は仕方がないことだと思うが、希望として平成34年までは現状のままで、統合等は平成39年から八戸市内、三戸郡と同時に行ってはどうか。平成34年の統合は性急すぎると思う。
- 第1期の方が生徒の減少が確かに大きいですが、統合については時間がかかるものであり、2、3年後に統合ということであれば住民もあまり良い思いはしないのではないか。

#### (学科等)

- スポーツ科学科や表現科など、県立高校の特色ある学科は大事にしてほしい。
- 三八地区の特色及び専門的な施設・設備の設置状況に鑑み、工業科と水産科の維持など、地域や産業の根幹を支える人材の育成は必須である。
- 専門高校からも推薦を含め大学進学できるという道を作ることが、総合高校や専門高校に進学する生徒や保護者にとって魅力的なことだと思う。

#### (連携校等)

- 各高校の特色を明示し、中学生に対して授業公開するなど積極的に情報提供を行い、中学生が適切に進路選択できるような配慮が必要である。
- 4学級規模の高校には青森県独自に教員を増員して6学級規模に相応する科目を開設するなど、特色を打ち出してほしい。施策実施には予算を伴うことから、大きな予算を準備して高校改革を進めてほしいものである。

### (生徒の通学)

- 重点校、拠点校への通学手段の確保が必要であり、自宅から安心して通えるように公共交通機関との連携が不可欠である。
- 子どもたちが安全、安心に通学できることが重要であり、通学時間も重要である。通学ができないような地域については、高校教育を受ける機会を確保してほしい。
- 郡部の学校がなくなり、八戸市内の高校に通学する場合の保護者の負担を考慮してほしい。
- 交通機関及び費用に配慮して地域校を配置することについては、自己負担で私立高校に通学している生徒がいることも考慮した上で、不公平感が出ないように検討する必要がある。
- 現状では、高校教育を受ける機会の確保と充実した教育環境の整備の二つを両立させることはできないと思う。充実した教育環境の整備を優先し、通学が困難な地域の生徒のためのスクールバスの運行や学生寮の設置等の対策を採れば良いのではないか。
- 通学には経済的な問題もあり、学校配置に当たっては、通学環境について考慮してほしい。
- 統合に当たってはスクールバスの充実など、保護者の負担軽減も大事である。
- 通学環境の整備に当たっては、例えばタクシーの利用等についても検討してはどうか。これができるのであれば、統合しても通学が可能になるのではないか。

### (その他)

- 高校においても特別な支援を要する生徒が増えてきている。教員数が確保できるのであれば、高校でも通級が可能になるような仕組みが必要と考える。
- 教育を受ける権利を考えると、八戸市内の高校と地域校で同等の教育が保障されているのかという点に疑問があるので、地域校における教員配置について検討してもらいたい。
- 自分の地域から学校がなくなるということを含め、青森県の未来を担う子どもたちのために身を切る、つまり、再編に向けて学級減・統廃合に応じるという思いがないと、ソフトランディングできないのではないかと考えている。
- 少子化対応の高校教育改革とならないように、高校改革のビジョンを前面に出すことで、地域からの理解も得られるのではないかと思う。
- 三八地区には私立の高校が多く、それぞれの学校の特色があり、現在は良好なバランスのもと、県立高校と共存している。このような地区の特色にも配慮した上で、再編を進めることが必要なのではないか。
- 青森県立高等学校将来構想について(答申)が求める「オール青森」の視点を大切にすると、県全体が一丸となって進める高校教育改革では、地方(郡部)を切り捨てるべきではない。  
入学者数が多い時期は都市部に新設し、入学者が減少すると郡部の学校を学級減、廃止するという方向は、郡部の学校を無視し切り捨てるものであり、正しい方向ではないと考える。
- 八戸市内の普通高校も35人学級にしていくというのは無理なものか。

### 3 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

- 定時制・通信制課程については、通学に考慮して、交通の便が良い所に設置してほしい。また、ICT等を利用するなど、多様な教育を受けられる環境を整備してもらいたい。
- 夜間部の志望者が少ない場合は、昼間部の募集人員枠を広げてはどうか。
- 少数かもしれないが、生徒のニーズに耳を傾けた上での配置をお願いしたい。
- 夜間部志望者が少ない場合は、昼間部の募集人員枠を広げてはどうか。
- 様々な事情を抱える生徒が少なくないことから、きめ細やかな指導体制の整備及び保護者をも巻き込んだ指導・助言を行い、将来、社会に貢献できるような力を付けさせることが必要であると考えます。



【参考1】委員名簿（三八地区）

（敬称略）

区分	所属等	委員名	備考
市町村教育委員会	八戸市教育委員会 教育長	伊藤 博章	
	三戸町教育委員会 教育長	友田 博文	
	五戸町教育委員会 教育長	高橋 正之	
	田子町教育委員会 教育長	宇藤 裕夫	
	南部町教育委員会 教育長	山田 義雄	平成29年1月9日まで
	南部町教育委員会 教育委員 （教育長職務代理者）	境 久孝	平成29年1月31日から
	階上町教育委員会 教育長	川浪 孝雄	
	新郷村教育委員会 教育長	橋本 芳弘	
P T A	八戸市連合PTA 会長 （八戸市立柏崎小学校PTA 会長）	石橋 伸之	
	三戸郡連合PTA 会長 （三戸町立三戸小・中学校PTA 会長）	中村 孝範	
	青森県高等学校PTA連合会 三八地区協議会 会長 （県立八戸工業高等学校PTA 会長）	吉岡 義久	
産業界	八戸商工会議所青年部 理事	田村 哲章	
小 中 学 校 長 会	八戸市小学校長会 会長 （八戸市立長者小学校 校長）	嶋脇 郁夫	
	三戸郡小学校長会 会長 （南部町立向小学校 校長）	芦名 均	
	八戸市中学校長会 会長 （八戸市立第一中学校 校長）	四戸 康雄	
	三戸郡中学校長会 会長 （南部町立名川中学校 校長）	高橋 力也	
	元県立名久井農業高等学校 校長	斗沢 一雄	進行役

【参考2】オブザーバー名簿（三八地区）

（敬称略）

所 属 等	オブザーバー名	備 考
県立八戸高等学校 校長	久 慈 恵 司	
県立八戸東高等学校 校長	福 井 武 久	
県立八戸北高等学校 校長	竹 浪 二三正	
県立八戸西高等学校 校長	鎌 田 晃 説	
県立三戸高等学校 校長	三 上 幾 子	
県立五戸高等学校 校長	宍 倉 慎 次	
県立田子高等学校 校長	石 澤 徳 成	
県立名久井農業高等学校 校長	四 木 博 之	
県立八戸水産高等学校 校長	米内山 裕	
県立八戸工業高等学校 校長	一 戸 利 則	
県立八戸商業高等学校 校長	敦 賀 定 彦	
県立八戸中央高等学校 校長	高 谷 正	
県立八戸聾学校 校長	中 村 健	
県立八戸第一養護学校 校長	敦 川 真 樹	
県立八戸第二養護学校 校長	神 林 宏 喜	

【参考3】地区意見交換会の開催状況（三八地区）

回	年月日	内容
1	平成28年 9月14日	○学校規模・配置に関する意見発表
2	平成28年11月14日	○第1回地区意見交換会での意見等を踏まえた学校配置シミュレーションに関する意見交換
3	平成29年 1月31日	○地区意見交換会委員の意見に基づく学校配置シミュレーションにおいて想定される効果・課題等に関する意見交換